

## テーマ 農業 「多品目栽培による所得向上」

開催日時 平成20年7月4日(金)午後7時30分～9時

開催場所 「AST 2階会議室」

作成者 農業活性化本部 沖 浩一

市民出席者（敬称略）

	氏名	性別	住所	活動内容等
1	山口 勝俊	男	松崎町	きゅうり、たらの芽、ヤマブドウ他 JA はなまき遠野地域特産生産部会長
2	佐藤 壽子	女	宮守町	湯屋農家組合(集落営農 たらの芽促成栽培) 組合員の先導的存在 今年からたらの芽生産に関わる方々と「ブロッコリー」と「カリフラワー」の栽培を始める。
3	千葉 カズエ	女	宮守町	湯屋農家組合(集落営農 たらの芽促成栽培) 組合員の先導的存在 今年からたらの芽生産に関わる方々と「ブロッコリー」と「カリフラワー」の栽培を始める。
4	白金 恵一	男	松崎町	(有)夢大地 鯉農法米(無農薬)や古代米栽培等の生産販売。 ミニトマトアイコや冬作のプチヴェール出荷。
5	菊池 よし	女	小友町	トルコギキョウやホウレン草等多品目に取り組む。 冬場は、花壇苗を取組む。家族経営協定を締結したことにより、作業の効率も向上。
6	吉田 敦史	男	青笹町	新規就農予定者(青笹町 佐々木新夫宅同居) 現在、農業大学校に通いながら農作業従事 松崎町駒木の山口岩男氏できゅうり栽培の弟子入り中 関東方面から昨年遠野へ移り住み新規就農に向け準備中
7	吉田 美保子	女	青笹町	吉田敦史さんの妻 姉は青笹町の佐々木恵美子氏(ミニトマトあいこジュースで昨年岩手県産業貿易振興協会会長賞受賞)。
8	宮澤 静江	女	上郷町	らくらく小菊クラブ 今年から新規栽培グループ5名(上郷町中心)で小菊の栽培に取り組んでいる。上郷産直のリニューアルに向け、品揃えの充実を図る。

	意見・提言の内容	市長のコメント	担当課の意見・回答等
1	湯屋農家組合では、販売経路と単価の安さの問題はあるが、3年目になって軌道に乗ってきた。組合員皆で和気あいあい頑張っている。	湯屋のみなさんに、花壇整備などの地域活動もしていただいで嬉しい。	集落営農のモデルとして期待しているので、是非頑張ってくださいたいし、今後も支援していく。
2	田んぼに鯉を放し雑草の抑制を試みているが、水路に家庭排水が流れており水質が悪いことが気になる。また、気候が今までとは変わってきている気がする。	遠野の農業を取り巻く環境問題についても意見を出して指摘していただいで良かった。	農業に関する水質保全について取り組んでいく。

3	<p>家族経営協定を締結したことにより、家族が変わった。色々やってくれるようになった。花を始めて3年になるがもっと増やしたい。切り花を産直に出したいので、研修をお願いしたい。</p>		<p>今後とも生産技術に係る研修については、積極的に支援していく。</p> <p>切り花（小菊等）の研修については、早速取り組む。</p> <p>7/14 北上市、8/1 宮城県実施済</p>
4	<p>産直かみごうは野菜中心だが、食料品やパン屋を置くようにして売上也伸びた。しかし、2年目で出足が鈍い。らしく小菊クラブでは、やってみて消毒等の手間がかかり決して楽ではないことがわかった。</p>		<p>小菊クラブでの、みなさんの明るい活動状況は、ASTとしても励まされるところがある。新規参入のモデルとして期待している。</p> <p>産直での売上に貢献できるよう、技術の指導、販売等に支援を続けていきたい。</p>
5	<p>新規就農者として情報収集した際、遠野市ホームページでの新規就農コーナーが更新されておらず、新規就農者の受け入れに対する姿勢が見えなかった。</p> <p>農業大学校での情報交換で、「で・くらす遠野」やアストの話聞き、新規就農者への支援があることを知った。</p> <p>しかし、遊休ハウスの情報などの提供力が足りない。きゅうりやミニトマトなど、新しく始めた多品種の売り先を探している。</p>	<p>「で・くらす遠野」市民のなかには、夢を持って農業に取り組もうとしている若者の割合が少ない。若い新規就農者には期待をしている。新規就農者の受け入れが、人口減少の歯止めになる。</p> <p>情報の提供については整備が必要である。</p> <p>また、遊休ハウスの情報提供は不可能なことではない。再調査をして情報を提供したい。</p> <p>市としては情報を発信しているつもりだったが、うまく伝わっていないようだ。</p>	<p>新規就農については、当面の資金、生活、住む所、土地、栽培品目、栽培技術等就農希望者により多様なケースがあることから、希望者個々の相談を受け、対応する機関等が連携して支援を行っているのが実情である。意見のとおり最初の相談窓口等が明確になっていない。</p> <p>希望者が分かりやすい情報提供体制と窓口体制を整備したい。遊休ハウスについては、流動化している個人の資産をタイムリーに把握するのは、困難であるが、把握方法を検討しながら、情報提供に努めたい。</p> <p>栽培する品種を選定するためには、売り先が確定していることが重要。過去に遊休ハウスのリストを作ったことがあったが、その多くは引き取られた。利用したい人は新たに遊休ハウスを探さなければ見つからないのが実態。</p> <p>また、インターネット販売は営業コストがかかって難しい。ASTで支援していく。</p>
6	<p>AST や普及サブセンターにはお世話になっており助けられている。しかし農協は手数料が高い。</p>	<p>湯屋農家組合で仲間ができて、みんなでがんばっていることは素晴らしいこと。所得向上にむけて市やASTができることを考えていきたい。</p>	<p>新規作物の栽培に積極的に取組んでいただいている。その積極性には、敬意を表します。</p> <p>ASTとしても、支援をしながら一緒になって成功事例を作っていく。</p>
7	<p>インターネット販売で遠野の紹介に工夫をしている。今年初めたばかりで、まだ反響はわからない。ホームページは他社に作ってもらった。</p>	<p>ASTでも、遠野テレビとのつながりを活かして、ネットの架け橋事業ができるのではないかな。</p>	<p>ASTでも、ホームページを作成しており、農業者が作成するホームページをリンクするなどして、認知度を高めるよう支援する。</p>

8	いいものを作って喜ばれたい、作ったものは必ず売りたいという気持ちがある。 JA は手数料が高いが、産直での販売は売価を自分でつけられるから良い。		販路の開拓も AST の重要課題の一つであり、農業者の思いが叶うよう努力していく。
9	加工品を作りたいが、場所の問題がある。		加工する物にもよるが、過大投資をしないことが大切であり、個々にアドバイスしていく。
10	遠野は産地としてのイメージが薄い。具体的な作物が浮かばない。	農業もからませて宣伝し、作物に付加価値をつけたい。 AST の働きも重要。	夏作の作物はどこでも作ることができるため、差が出るのは冬の作物なので、検討していく。
11	冬のプチベールという新野菜がある。芽キャベツとケールが合わさったもの。栄養も豊富だが、苗が高い。		プチベールについては、冬季作物として一定の需要があるが、爆発的に売れる状況ではない。地道に販売努力をしながら、バイヤー及び消費者への周知及び信頼を得たい。
12	農家の法人化を進めるにあたって、面積の拡大を目標としているが、基盤整備が思わしくない。		
13	集落営農組合が一つにまとまっている感じがしない。	まとまりある組合もあれば、まとまりない組合も存在する。地域によっても性格が違う。	JA 担い手課のコーディネーターを中心に支援をしていく。